

# なぜ幼稚園で運動会をするのか

柴崎 正行

一、何のために運動会をするのだろうか

現在どこの幼稚園でも当たり前のように行っている運動会ですが、何のためにいつ頃から行われるようになったのかということ調べてみると、案外まだ知られていないことが多いようです。

例えば幼稚園で行われている運動会が一年のうちどのような季節に行われるかを見てみると、春と秋という二

つの時期にわかれていることがわかります。秋に運動会をするのは体を動かしやすい気候だからという理由が考えられますが、春というのはどうも解せません。

ここで実際に春にも運動会をしている幼稚園の先生方に理由をたずねてみると、この園の伝統行事として小学校と合同で行っているのですが理由はよくわかりません、という答えが多く返ってきます。まだ入園して間もない子どもたちに練習をさせるのは無理があるのでした

くないのですが、やめるわけにもいかないのです、という話さえ聞かれます。

このように辛いことも多いのになぜ五月とか六月頃に運動会をするのだろうか。その理由は何か。またいつ頃から春にもするようになったのだろうか。それは秋の運動会と意味がどのように違っているのだろうか。幼稚園の運動会に関する疑問と興味はますます広がってきます。

いろいろな幼稚園で運動会の話をついでいるうちに、春に運動会をする幼稚園のほとんどが小学校に付設している公立幼稚園であることに気がきました。しかも小学校との合同運動会という形で行っている園が多いのです。まれには春に単独に運動会を行っている幼稚園もありますが、それは日曜日に保護者も一緒に参加する地域のお祭りの要素が強いことにも気がきました。

幼稚園の運動会に関する疑問はまだまだあります。運動会の内容を見ると、徒競走、玉入れ、綱引き、踊り、リレーといった小学校と同じ内容を行っている幼稚園が多いのですが、いつ頃からこうした内容を取り入れ

たのでしょうか。最近ではこうした競技的な要素を少なくして、練習をしなくてもその場で楽しめることや親子で楽しめる内容に変えている幼稚園も増えてきました。

いったい運動会の内容としては何を大事にすればいいのか、幼稚園の運動会に関する疑問はますます大きくなります。そこでわが国の幼稚園の運動会に関する歴史を調べてみることにしました。その結果いろいろと興味ある事実が明らかになってきたのです。

## 二、わが国の幼稚園における運動会のはじまり

わが国の幼稚園においていつ頃から運動会が行われるようになったのかという運動会の起源は、どうも明治中期にまでさかのぼれるようです。

長野県松本市の開智学校附属松本幼稚園は明治二〇年に開設されましたが、その開智学校では「児童ノ就学ヲ奨励シ、師弟ノ関係ヲ親密ナラシメ兼テ活発ノ氣質ヲ養成スル」という目的で毎年四月に運動会を実施していま

した。これは少し離れた場所に出かけて行き、そこで運動をするという、郊外遠足と運動会を兼ねたものでした。明治二四年四月十八日の学校日誌には「春季大運動会ヲ北深志岡ノ宮ニ開ク……四中隊二十九小隊ニ分チ別幼稚園ヲ遊軍トス。……」と記載されており、松本幼稚園は松本尋常小学校の組織の一部に位置づけられており、すでにこの頃から運動会にも一緒に参加していたことがわかります。またこの明治二四年記述が、現在のところわが国の幼稚園における運動会に関する一番古い記録になるようです。

このことから小学校に付設していた幼稚園では、すでに明治二〇年代から運動会に参加していたこと、また春の運動会は就学奨励、生徒の関係を親密にする、活発な気質の養成という三つの目的があったことがわかります。明治二八年からは秋の大運動会も城山で行っており、この年から春秋二回の運動会が行われるようになります。

また松本幼稚園の明治時代の「保育日誌」には、運動

会は幼稚園も含めた全校で近くの山や寺社に行き、行き先で自由に遊んだり兵隊遊びや鬼ごっこをしたり、教師の用意した旗取りをして過ごしたあと、褒美にパンなどをもらって帰ってきたというような記録が頻繁に書かれています。この頃の運動会は、遠足と運動遊びを合わせたようなものであり、軍隊式の行軍と競技を行うことにより意識の高揚を図るという意味合いがあったようです。したがっていまの運動会のように人に見せるために行うというような意味はまだなかったようです。

明治中期の幼稚園における運動会の記録は少ないのですが、もうひとつ『徳島大学芸学部附属幼稚園七〇年史』に、明治二九年八月に「春秋兩期に運動会を挙行する。」という記事があります。それに続いて「本年は特に遊戯具、運動具を増加する。」という記載があることから、すでにそれ以前から運動会を挙行していたことが推測されます。

そこで徳島市内の小学校における運動会の歴史を調べてみますと、徳島県師範学校附属小学校と近隣の小学校

はすでに明治十七年から連合運動会を開いていたことがわかります。その種目は綱引き、徒競走、宝拾い、的打ち、玉入れなどという今の小学校の運動会と同じような内容であったようです。附属幼稚園はそこに一緒に参加して運動会を行っていたと思われまます。

このようにわが国の幼稚園における運動会のはじまりは、小学校に付設された幼稚園が小学校の運動会に一緒に参加すること起源があるようです。しかもすでにその頃から春と秋の二回の運動会が行われており、春の運動会は生徒の関係を親密にするという意味があつたようです。

### 三、幼稚園における運動会の普及

ではわが国の幼稚園において中心的な存在であった東京女子高等師範学校附属幼稚園では運動会をどのように行っていたのでしょうか。その経緯については柏原氏

(一九九三)が詳細に調べています。

それによれば、附属幼稚園では明治三五年の十一月に幼稚園で父兄懇談会を開き、同時に運動会を催して参観してもらったということです。また次の年である明治三六年には、幼稚園でも春の運動会を開催するようになり、秋の運動会は前年と同じように父兄懇談会と運動会を兼ねて行いました。

この東京女子高等師範学校附属幼稚園の運動会の特色は、幼稚園の園庭を使って幼稚園独自で行ったことと、父兄に参観してもらうことを目的にして行ったことです。そのために内容も唱歌や競技、遊戯が中心であり、年齢別に行っていました。これは現在の幼稚園で行われている運動会の原型に近いものであるといえるでしょう。

附属幼稚園の運動会は太正時代になると、春秋に行われた他の附属学校との合同運動会に参加するものになり、単独で行われることはなくなりました。なぜ単独で行わなくなったのか、その理由は現在のところまだわかっていません。

東京市の小学校の運動会の歴史をみると、明治二〇年代から広場や公園などで地域の学校が合同して連合運動会を行っていたようです。港区の運動会の記録によれば明治後期には参加者が三千、六千という規模になり、児童や保護者はもとより地域の住民にとっても楽しみな行事になっていったことです。その内容をみると現在の小学校の運動会とほとんど同じ内容であり、競走や競争、遊戯や唱歌、体操や綱引きが中心であることがわかります。

こうした連合運動会に幼稚園児がいつ頃から参加していたのかははっきりしませんが、明治末期の根岸幼稚園の運動会の写真には、円形になって行進または遊戯をしている様子が写っています。またその周囲では多くの見物人が見えています。これらのことから、近くの公園などでおこなわれた小学校などの連合運動会に幼稚園も一緒に参加して、簡単な遊戯などを演じていたことが推測されます。

東京市京橋区月島幼稚園では、毎年十月中旬ごろ近く

の大運動会において佃島小学校と合同で運動会を行ったということ。幼児は芝生の上に筵を敷いて、普段見馴れないお兄さんや、お姉さんたちの、体操や、競技に拍手を送っていたそうです。また自分達も、遊戯、団体競技、徒競走の三種目に参加したようです。

こうしたことから東京での公立幼稚園では、大正時代から昭和初期にかけて小学校などの連合運動会に参加するようになったと思われます。また記録からは、やはり昭和初期には私立幼稚園も合同運動会に参加していたことがわかります。例えば私立瑞穂幼稚園では昭和初期から近くの小学校の運動会に毎年招待され、遊戯を演じに参加していたということです。私立東洋英和女学校附属幼稚園でも昭和六年には小学部の運動会に参加していたということ。昭和十二年の日誌によれば運動会での幼児の参加種目は旗の遊戯、風船競争、紅白まり入れであり、午前中のみ参加であったことが記されています。

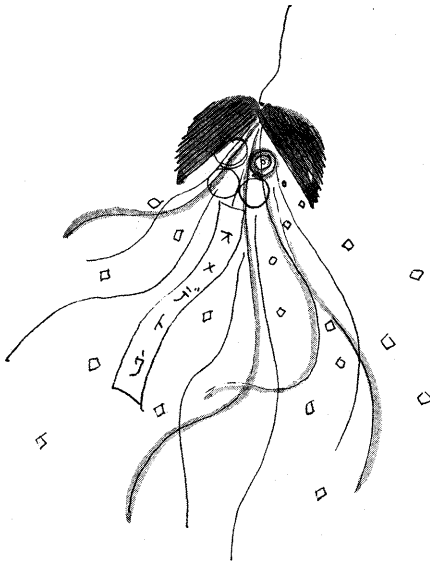
わが国の幼稚園における運動会の普及は地方でもみら

れます。大正時代に徳島市内に開設された四つの幼稚園では、毎年連合運動会を開催していたという記録が残っています。また長野県の小学校においても明治三〇年代から地域の行事として連合運動会が盛んに開催されるようになりました。そうした影響もあり、はじめに紹介した松本幼稚園でも運動会の形が郊外遠足的な色彩が次第に薄れていき、大正年間には園児たちも地域の運動会に参加して、観衆の前で遊戯をするようになり、いわゆる見せる運動会にかわっていったのです。

#### 四、幼稚園だけで運動会を行うようになる

しかし松本幼稚園の昭和初期の日誌になると、運動会について大きな変化がみられるようになります。それは地域の運動会に招待されて参加することの弊害が認められるようになったことです。そこで松本幼稚園では、昭和二年六月には県営運動場において初めて幼稚園だけで運動会を行うようになったのです。

その時の種目は、遊戯「朝のつとめ」「電車」、競争「まり送り」「旗送り」、遊戯「金太郎」「まり送り」、競技「旗送り」「綱引き」「バスケットボール」等でした。すべての種目が終わると、参観していた父兄と一緒に弁



当を食べ、紙屑を拾った後、父兄と共に電車に乗って帰ったということです。そして昭和四年には初めて幼稚園の裏庭で運動会を行いました。これは松本幼稚園にとって初めて自園の園庭で独自に行った運動会でもありました。

このことから昭和初期からは合同運動会や連合運動会の弊害が認識され、独自で運動会を開催する幼稚園が出て来ていることがわかります。

京都市の市立豊園幼稚園では、大正六年に幼稚園の園庭と思われる場所で輪になって鳩の遊戯をしている園児の写真があります。日章旗や他の旗が飾られており、周囲で多くの観客が見ていることから運動会の写真であると思われませんが、エプロン姿の幼児が演じているので、豊園幼稚園で開催された運動会であろうと思われれます。

また昭和十四年十月に私立神戸幼稚園ではすでに幼稚園単独で運動会を実施していたことが記録からわかっています。

このように昭和初期を過ぎるころには、合同運動会あ

るいは連合運動会に幼稚園が参加することの意義が問い直され、次第に幼稚園単独で運動会を行うことも見られるようになったのです。

昭和四年に松本幼稚園はそれまでの出かけて行く形の運動会をやめて幼稚園の裏庭で運動会を行いました。その記録には「照りもせず降りもせぬよき日なれば裏庭へ椅子を持ち出し、周囲へずらりと並び大喜び、お唱歌より初め、輪を首にかけて走るゲーム・遊戯・バスケットボール等各組代る代る、応援も盛んにて大分楽しき時を過ごす、お腹もすきたれば中に這入りお弁当にする、……」と書かれています。

大規模な運動会に参加し見てもらうよりも、たとえ規模は小さくても自分達で無理なく自然に楽しめる運動会にしたいという松本幼稚園の保母たちの願いがみごとに実現されている幼稚園独自の運動会であるといえます。

このように昭和のはじめ頃から、それまでの大規模に行う運動会では幼児に無理があるという弊害が反省されるようになりました。そして幼児にも無理なく楽しめる

運動会にしたいという努力が払われるようになったのです。

## 五、幼稚園における運動会の意義と現在の問題点

わが国の幼稚園における運動会の歴史を調べてみて、幼稚園における運動会の意義として歴史的には次のような意義があることがわかりました。

運動会は明治前期から小学校において就学奨励や意義の高揚などの目的のために行われましたが、その小学校に付設された幼稚園もそれに参加するという形で幼稚園にも取り入れられていきました。そして幼稚園が参加した最初の運動会は、現在の確認できる記録からは明治二四年に松本幼稚園が参加した運動会です。

小学校の運動会は当初から春秋二回開催されており、春の運動会には生徒間の親密を図るという意図がありました。この伝統が現在も小学校に併設されている公立幼稚園に残っており、春には小学校との合同という形で運

動会を行っているわけです。したがって春に運動会を行う意義は、まだお互いに親しくなれていない子どもたちを運動によって交流させ、親密になれるようにしたということだったようです。

今の幼稚園の運動会で行っている内容が、小学校の運動会で行っている内容と類似しているのは、そもそも幼稚園が小学校の運動会に参加させてもらっていたというこうした歴史的な起源に関連していることがわかります。

幼稚園が単独で運動会を行ったのは現在の記録からは明治三五年の東京女子高等師範学校附属幼稚園の秋の運動会が最初です。その意義は、父兄に参観してもらい子どもたちの元気な姿を見せることにあったようです。しかし幼稚園で単独に運動会を行うようになるのは、この附属幼稚園の方式がそのまま広がったわけではなく、大正時代までに全国的に普及していった小学校との合同運動会や地域の連合運動会に参加することの弊害が、昭和初期頃に幼稚園関係者に認識されるようになってからで



した。幼児に無理をさせてまで大規模な運動会に参加させるよりも、小規模でもいいから幼児にも楽しめる運動会にしたいというねがいがそこにはあったのです。

現在においても、小学校も顔まけの大規模な運動会をして保護者に成果を見せている幼稚園があります。すでに明治三〇年代において東京女子高等師範学校附属幼稚園は幼児の姿を保護者に見せる行事として運動会を意味づけていました。その意義は伝統として受け継ぎながらも、あまりに運動会が練習の成果や出来栄を見せることに偏っているのが現状ではないでしょうか。鼓笛隊や組み体操といった小学校の高学年がやるような内容を、見栄えがするという理由で幼児に厳しい訓練的な練習によって教え込んでいる現実をみると、果たしてこれではないのかと疑問に感じます。

すでに六〇年以上前に、こうした小学校的な運動会が幼児に弊害をもたらすことに気付き、何とかして幼児自身が無理なく楽しめる運動会にしようと努力したことが生かされていないのが現実なのです。もういちど六〇年

前の保母たちの努力に学び、運動会の内容も小学校の運動会と同じようなものをこなすのではなく、もっと幼児が無理なく自然に楽しめるものに変えていく必要があるのではないのでしょうか。

(東京家政大学)

#### 参考文献

柴崎正行、田代和美…わが国の幼稚園における運動会の起源に

ついて「保育学研究」一九九二 日本保育学会

柏原栄子…幼稚園における運動会に関する一考察

「日本保育学会 第四六回大会研究論文集」一九九二

松本市立松本幼稚園…「松本市立松本幼稚園百年誌」一九八七